

父の友達にも変わったおじさんが多いです。

林 みんな横浜のためならなんでもしますってね。この前みなとみらいのホテルでお世話になった方も横浜が大好きでたまらないとおっしゃっていましたね。

渡辺 しかし、自分の街が好きなので自己満足で悪循環になりやすいので、良い循環にしていけることも大事かと。

林 そう、いつも市の職員にも東京に行って多くを見てきてくださいといっています。市の中で仕事も生活も完結している人が多いですから。

いつも顧客の傍に

渡辺 市長のこれまでの営業のご経験がピンチをチャンスにされているのではないのでしょうか。

林 そうですね。誘致のときに、私自身が図面をもって「ここが空いています。日当たりもとても良く、利便性に優れていますよ。」と説明したら相手の社長はびつくり(笑)。市の職員も既成概念にとらわれてはいけ

「つながり」を強固に

検討しています。国が変わりつつありますから規制も緩和しながらやろうとしています。

渡辺 的確に高齢者対策を展開されているようですが。

林 これはUR都市機構が有力なパートナーなのでありがたいことです。栄区の公田町では、URと居住者、横浜市の協働により安心見守りのネットワークづくりを行い、住居だけでなく、地域のみなさんが気軽に立ち寄れるサロンなど、多目的な交流拠点を展開しています。今年の3月には、URの小川理事長にお越しいただき、自治体でははじめて、様々な取り組みを一緒にやりましょうという包括協定をさせていただきました。高齢者支援のほか、子育て、地域福祉、環境配慮、防災防犯などの施策により、安全で安心、そして魅力ある街にしていきたいという協定です。また、100万人の健康づくり戦略を中期4か年計画に取り入れ「よこはま市民健康ポイント制度」の導入を検討しています。シニアの方が楽しみながら体力づくりや社会活動に参加するとポイントが貯



渡辺 真理
 わたなべ まり
 フリーアナウンサー

1967年神奈川県横浜市生まれ。国際基督教大学(ICU)教養学部卒業。1990年に入社したTBSを1998年3月に退社。同年5月よりテレビ朝日「ニュースステーション」のキャスターとして出演。現在、フジテレビ「熱血!平成教育学院」(日曜 19:00~)、テレビ東京「地球VOICE」(金曜 21:54~)、TBSラジオ「JOMO presents 渡辺真理のこたげ遺産~未来に伝えたいあの一言~」(月曜 17:50~)に出演中。他にも雑誌連載「我ら劇場主義」(週刊ポスト)、「渡辺真理の読書日和」(ROSALBA)など執筆活動も行っている。

ません。役所には営業部がなく、総務とか経理など管理部門だけ、それは違うのではと考え、横浜市は企業誘致の専門部隊を東京に置きました。毎日動いて御用聞きです。企業誘致もホームページで募集するだけではダメ。街を歩いて、この会社は人が増えている、ここではスペースが足りないのではないかと、色々なアンテナを毎日張り巡らす。すると「そろそろ引越そうか。そういうえば横浜市が来ていたな」となる。いつも顧客の傍らにいないといけない。「これはかつて車を買っていただいたいた歌舞伎役者さんに教わったんです。私が管理職になって部下にそのお客さんを任せていたら、あるとき呼ばれてものすごく叱られて。「芝居に命をかけているのだから時間がない。ふっと横を見たときにあなたがいないといけない。それが営業というものだ。」って。良いお話でしょう。

渡辺 それを良いお話と受け止められる市長の感性がすごいです。

林 ですから職員にいつているのは、いつも出入りをしなさいと。中小企業支援と口でいうだけでなく足を運ぶ、会社に行けばその会社がわかるでしょう。肌で感じないと仕事はできないのですよ。役所はそれが足りない、来てもらうという感じなので

まり、様々な特典にポイントが使える仕組みを考えています。そのほかリタイアされた方だけの企業が増えている、そんな企業を社会貢献活動として側面から支援させていただく。さらに相談したくても誰にもいえない認知症のコールセンターも開設しました。

渡辺 この夏、当時の前原国土交通大臣、長妻厚生労働大臣のお二人がUR都市機構の団地を視察なさったそうですね。

林 はい。港北区のコンフォール南日吉ですね。団地の建替えによって生み出された土地を活用して、民間事業者の参画による生活支援サービス付きの高齢者専用賃貸住宅が建設されたものですね。横浜市としてもありがたい先駆的な事業です。

渡辺 私も両親を介護する歳になりました。痛感するのはハードだけでなく、ライフスタイルが変わり、価値観の転換ができるような都市生活の仕組みができた良いなということです。

林 特に、経済的に厳しいと削減されやすい施策、教育・芸術・スポーツなどは人間形成には不可欠のものです。だからこそ、私は力を入れた

す。しかし最近の横浜市役所は行動的になりましたよ。

渡辺 いや、びつくりしました。印象が変わりましたね。なんだか明るい雰囲気です。「林市長のもとで働いているいると盗ませてもらいたい。」そういう雰囲気職員のみなさんに生まれたのではないのでしょうか。

林 私はいろいろな会社の再生をやってきましたが、最初ここは文化が違ふと感じました。でも1年たったら理解し合えてすごく良い関係になりましたね。市会とも良い関係です。視点がすべて「人」だから必ずつながっていくのですね。ある研究機関の調査によると、横浜市はもともと魅力的な市町村ランキングで4位、住んでみたい市町村では1位、横浜市民意識調査では横浜に住み続けた人は7割以上です。しかし申し訳ないのは子育て支援や待機児童対策がなかなかうまくいかないことです。この課題解決のために、就任直後に市長直轄の課題対応プロジェクトを新たに立ち上げました。そこで得た結論は、子育て家庭のニーズは多様であること。保育所を整備するだけではダメだし、ママたちみんながフルタイムで働きたいわけではないのです。この時間帯だけ働きたいといった様々なニーズに対応できるように

い。例えば、文化芸術。みなとみらいホールは日本で最高レベルの音響ですし、横浜美術館もすばらしいのですが、いまひとつ認知されていない。また掃部山かみんやまの能楽堂や野毛のにぎわい座などもっと皆さんに親しんでいただきたい。来年度から文化観光局(仮称)という新しい局を創設し、横浜の強みである文化・観光・MICE・創造都市の実績を集約して、横浜の魅力向上と集客の増加を実現したいです。文化・芸術・観光の他に何十年も積み重ねてきた横浜の伝統には、「まちづくり」や「景観づくり」もあり、これらさらに磨いていきたいですね。また、UR都市機構も参画している横浜駅周辺の再開発計画「エキサイトよこはま22」はイメージ図面をご覧になるとわくわくするほど水辺や木々の緑、太陽の日差しを感じられ、きれいで楽しめます。

渡辺 市長の話を伺っていると私もわくわくします。

林 市民のみなさんに明るい未来を信じて毎日を前向きに過ごしていただけのような策定している中期4か年計画、その基本理念の要素に「つながり」があります。UR都市機構さんとの「つながり」もこれからはますます強固にしていきたいですね。

CHECK! 横浜山下町地区や先駆的な高齢者支援の取り組みについて17ページよりご紹介しています。